

B7 病気の遺伝子を探す



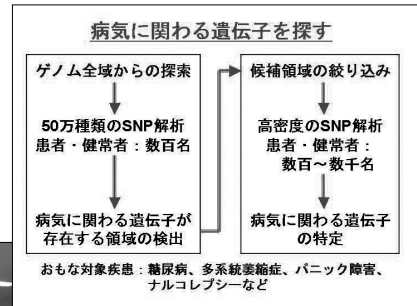
ゲノム研究の
緑の下の力持ち

展示責任者 徳永 勝士

展示責任者所属 東京大学大学院医学系研究科人類遺伝学分野

私たちは、さまざまな病気への「かかりやすさ」や「かかりにくさ」、あるいは病気の重症化などに関わる遺伝子を探すための研究を支援しています。このような病気の遺伝子を見つけ出すためには、多くの場合、(1)ゲノム全域から病気の遺伝子がありそうな領域を探し出す、(2)探し出された領域をより詳しく調べて病気の遺伝子を決定的にする、という2段階の研究を行います。私たちの「ヒトSNPタイピングセンター」では、(1)のために50万種類ものSNP(単一塩基多型)を多数の患者、健常者それぞれについて大規模に解析するシステムを整備し、また(2)のためにどんなSNPでも高い成功率で解析できる新しい技術を開発して

います。現在、私たちが大規模な解析を担当している病気には、糖尿病、多系統萎縮症とよばれる神経疾患、パニック障害とよばれる精神疾患などが含まれています。また私たち自身もナルコレプシーとよばれる睡眠障害、世界的な感染症であるマラリアなどについて研究しています。



C8 「ゲノム」ってどんなイメージ？

ゲノム研究と社会との接点

展示責任者 山縣 然太郎／林 真理

展示責任者所属 山梨大学大学院医学工学総合研究部／工学院大学工学部

「ゲノム研究」というと、研究室にこもって、何か(人間以外の)生き物や、そうじゃなければ目に見えない大きさの細胞を相手に、「実験」をしているというイメージがありませんか？

実は、それだけではないのです。「社会との接点」についての研究班では、現在の日本社会が、ゲノム研究や遺伝子について、どんなふうに理解し、考えているかについての研究を行いました。そういった結果を、ゲノム研究の専門家が理解し、今後の研究やその他の取り組みに生かすことも大切だからです。

今回は、「ゲノムのイメージ」に関する調査を紹介します。一つは国内在住の皆さん2000人以上に回答していただ

いたアンケートをもとに、ゲノム研究に対する賛否や理解などを分析したものです。「ゲノム」という言葉を知らない人が多い、一方で、ゲノム研究に期待を寄せる人が多いことがわかりました。もう一つは、ブログを分析して「遺伝子」にからんでよく用いられる言葉を抽出したものです。

さらに、見て楽しむだけでなく、参加して楽しめる用意もしました。

ゲノムに関する様々な思いやイメージを交換する「願いが叶うゲノムの木」があります。ゲノム研究の未来、あなたの未来はどうなって欲しいですか、ぜひ積極的に書き込んでいって下さい。

